

JAL闘争を支える京都の会News No.103

京都市東山区今熊野南日吉町 17 FAX : 075-531-3856 E-mail : komai123@kfa.biglobe.ne.jp

モノ言う労働者の 排除を許さない！

2024年2月27日、大手筋商店街（京都市伏見区）でJAL不当解雇撤回争議勝利をめざす宣伝行動をおこないました。「JAL闘争を支える京都の会」が呼びかけ、「きょうとユニオン」、「なかまユニオン」、「自立労連」、「合同繊維労組」、「米軍Xバンドレーダー基地反対・京都連絡会」、「憲法を生かす京都の会」の皆さんなど、計15人にご参加いただきました。今回の宣伝行動にはJAL客乗争議団の小栗純子さんが参加しました。

小栗さんは以下のように訴えました。「2010年日本航空は破綻した。破綻にともない人員の削減目標をたてた。そして希望退職を募った。しかし希望退職が削減目標に達しなかったということを理由に、私たち165名を年齢と病欠歴を基準に解雇した。しかし、フタを開けてみると、この近くにお住まいであった故稲盛和夫（当時日本航空会長）さんは私

たちが解雇されて2カ月後には、『あの解雇は必要なかったことは皆さんもおわかりでしょう。』ということ記者会見の場で発言した。日本航空は実行計画書で約600億円の利益目標をたてていたが、日本航空は私たちが解雇された12月31日には1600億円もの利益

を上げていた。そして何よりも、削減目標に対して職場の人員数はどうなっていたのか、それについて会社は明確な数字は労働組合に対しても明らかにしなかった。日本航空が国土交通省に出した書面の中に当時の職場の人数が出ていて、客室乗務員もパイロットも削減する必要がなかった、それくらい希望退職者で人員削減は成功していたということが明らかになっている。国土交通省もその事実を知っていた。日本航空はもっと悪質である。この整理解雇

の目的は、この165名のほとんどが日本航空に対してモノをいつてきた、そして安全に関しても不安全なことは不安全だということモノいつてきた、そういう労働者の追い出し、



首切り、モノいう労働者の排除であった、そしてモノいう労働者がたくさんいる労働組合の弱体化を狙ったものであったということが明らかになっている。それは飛行機を飛ばす会社



にとって安全と真逆のことである。職場の労働者がおかしいことはおかしい、不安全なことは不安全だとモノいうことこそが航空の安全を守ってきた。モノいう労働者を排除して、その後会社が客室乗務員の採用を再開し、パイロットの採用を再開しているにもかかわらず、何ら165名の乗務員を職場に戻そうとしない。客室乗務員は2012年からこれまでに6700人も採用しながら私たち84名を職場に戻さない。パイロットも15年から600人も採用しながら、81名を

職場に戻すことをしなかった。このようなことは絶対に許されるものではないと私たちは考えている。多くの皆さんにこの事実を知っていただき、ぜひご支援いただきたいと思いこの場所に立っている。」と訴えました。きょうとユニオンのOさん、なかまユニオンのKさんもマイクを握りJAL不当解雇撤回を訴えました。

この日も宣伝している人に対して話かけてこられる方も多く、小栗さんの報告にもありますが「ずっとこのJALの解雇の問題には関心を持って調べてきた。」と言う方がおられ、途中から宣伝行動に参加されるとともに、争議団に高額のカンパをしていただきました。



小栗さん(JHU)の参加報告(JAL不当解雇撤回争議団のfacebookから)

2024年2月27日

京都大手筋商店街宣伝(主催:京都支える会)
商店街はまだまだ活気があり、宣伝にもいつも温かい。支援者と共にお練り。通行人とも立ち話。元旅行代理店に勤められていた女性に「年齢で解雇するなんて人生設計もメチャクチャ。たいへんでしたね。頑張って」の声を頂く。高額カンパを持って駆け付けて下さった方も。ありがとうございました!



次回 宣伝行動 (呼びかけ JAL闘争を支える京都の会)
4月23日(火) 午後2時~3時 伏見・大手筋商店街
★ 3月の宣伝行動は都合によりありません。